

御中

2024年10月3日  
FYH株式会社  
品質管理グループ



軸受ユニットに関する SDS

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、下記のとおり安全データシート(SDS)をお送りしますので、よろしくご査収ください。

敬具

記

- 製品名 : UCTH205JL2  
UCTH204J  
UCTH204JL2

- 対象製品 : グリース FYH リチウムベアリンググリース

以上

## 安全データシート

FYH リチウムベアリンググリース

### 1. 化学品および会社情報

化学品の名称：	FYH リチウムベアリンググリース (FYH LITHIUM BEARING GREASE)
製品コード：	LXG25020B0-FYH701
供給者の会社名称：	FYH 株式会社
住所：	大阪府堺市美原区平尾 2306
担当部署：	品質管理グループ
電話番号：	072-361-3750
FAX 番号：	072-361-4173
メールアドレス：	<a href="mailto:info@fyh.co.jp">info@fyh.co.jp</a>
緊急連絡電話番号：	同上 / 受付時間：月～金曜日（8：30～17：15、祝休日を除く）
推奨用途：	軸受潤滑剤

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS 分類

健康に対する有害性：	皮膚腐食性/刺激性	区分 2
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2A

#### ラベル要素

##### シンボル：



注意喚起語：	警告
危険有害性情報：	強い眼刺激 皮膚刺激

#### 注意書き

安全対策：	保護手袋を着用すること。保護眼鏡または保護面を着用すること。取扱い後はよく手を洗うこと。
-------	--

#### 応急処置

皮膚に付着した場合：	多量の水と石鹼で洗うこと。汚染された衣類を脱ぐこと。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
------------	--

皮膚刺激が生じた場合：	医師の手当てを受けること。
-------------	---------------

眼に入った場合：	水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合ははずすこと。その後も洗浄を続けること。
----------	--

眼の刺激が続く場合：	医師の手当てを受けること。
------------	---------------

保管：	なし
-----	----

廃棄：	内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。具体的には、都道府県知事等の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
-----	--

他の危険有害性：	認知済みのものはなし。
----------	-------------

### 3. 組成および成分情報

化学物質・混合物の区別： 混合物  
化学名または一般名： グリース  
成分および含有量：

成分名	wt%	CAS 番号
溶剤脱ワックス重パラフィン系石油留分	45-55	64742-65-0
水素処理重ナフテン系石油留分	35-45	64742-52-5

危険有害成分

労働安全衛生法 鉱油（第 57 条の 2 通知対象物 政令番号第 168 号）  
化学物質管理促進法（PRTR 法） 非該当  
毒物劇物取締法 非該当

### 4. 応急措置

吸入した場合： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸していない場合、呼吸が不規則な場合、あるいは呼吸停止が起きた場合には、適切な訓練を受けた者が人工呼吸あるいは酸素吸入を行う。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。健康上有害な影響が持続または重篤な場合には医師の診断を受けさせる。意識がない場合、昏睡位（うつ伏せで顔をやや横向き）にしてただちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けを緩める。

皮膚に付着した場合： 多量の水で汚染された皮膚を洗浄する。汚染された衣服および靴を脱がせる。少なくとも 10 分間洗い流し続ける。医師の診断を受けさせる。衣類は再着用の前に洗濯する。靴は再使用前に十分に洗浄する。

眼に入った場合： すぐに多量の水で、時々上下のまぶたを持ち上げながら眼をすすぐ。コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。少なくとも 10 分間洗い流し続ける。医師の診断を受けさせる。

飲み込んだ場合： 水で口を洗浄する。入れ歯をしている場合ははずす。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。物質を飲み込んだ場合、被災者の意識があれば少量の水を飲ませる。嘔吐すると危険なことがあるので、もし被災者の気分が悪くなったらそれ以上水を飲ませてはならない。医師の指示がない限り、吐かせてはならない。もし嘔吐が起きた場合は嘔吐物が肺に入らないように頭を低い位置に保つ。健康上有害な影響が持続または重篤な場合には医師の診断を受ける。意識がない場合、決して口からものを与えてはならない。昏睡位（うつ伏せで顔をやや横向き）にしてただちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けを緩める。

急性症状および遅発性症状の最も重要な兆候症状： 上記応急措置の記述に記載されている情報に加えて、重要な症状や影響は項目 11 の有害性情報に記載されている。

応急措置をする者の保護： 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。

医師に対する特別注意事項： 症状に対応した対処療法を行うこと。大量に摂取あるいは吸引した場合は、ただちに毒物治療の専門医に連絡する。

## 5. 火災時の措置

消火剤：	火災に応じた消火剤を使用する。
使ってはならない消火剤：	認知済みのものはなし。
特有の危険有害性：	特有の火災爆発の危険有害性はない。
有害な熱分解生成物：	分解生成物には以下の物質が含まれていることがある。 二酸化炭素 一酸化炭素 金属酸化物
消火を行う者に対する注意事項：	火災が発生したら、すみやかに火災現場から人員を退避させて現場を隔離する。人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。 消火を行う者は適切な保護器具と、陽圧モードで動作するフルフェイス部分を備えた自給式の呼吸器具を装着しなければならない
消火を行う者の保護：	

---

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置：	人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。周辺地域の人々を避難させる。関係者以外ならびに保護用具を着用していない作業員の入室を禁じる。漏出した物質に触れたり、その上を歩いたりしてはならない。十分な換気を行う。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。適切な個人保護装置を着用する。
環境に対する注意事項：	漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝や下水道との接触を回避する。製品が環境汚染（排水、水路、土壌または大気）を起こしたときには関係する行政当局に報告する。
封じ込めおよび浄化の方法および機材	
少量流出：	漏出区域から容器を移動する。粉塵の発生を避けること。HEPA フィルター付き真空吸引機を使用すれば粉塵の飛散を減少させることができる。漏洩物は指定されたラベルの貼られた廃棄物用容器に入れること。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。
大量流出：	漏出区域から容器を移動する。放出現場には風上から近づくこと。下水溝、水路、地下室または密閉された場所への侵入を防止する。粉塵の発生を避けること。乾燥状態で掃かないこと。粉塵をHEPAフィルター付きの器具で吸い取り、ラベルが貼られた密栓付きの廃棄物用容器に入れること。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。 注意:接触時の情報は項目 1 を、廃棄処理は項目 13 を参照してください。

## 7. 取扱いおよび保管上の注意

### 取扱い

#### 安全取扱注意事項：

本物質の取扱い、保管、作業を行う場所での飲食および喫煙は厳禁。作業者は飲食、喫煙の前に手を洗うこと。飲食区域に入る前に汚染した衣類と保護具を脱ぐこと。同様に項目 8 の暴露防止および保護措置に関する追加情報も参照。

### 保管

#### 安全な保管条件：

現地の法規制に従って保管する。元の容器に入れ、換気の良い乾燥した冷暗所で直射日光を避け、混触危険物質（項目 10 を参照）および飲食物から離して保管する。使用直前まで容器は固く閉め封印して保管する。いったん開けた容器は入念に再密閉し、漏出を防ぐため直立させて保管する。ラベルのない容器に保管してはならない。環境汚染を避けるために適切な容器を使用する。

## 8. 暴露防止および保護措置

### 許容濃度

#### 暴露限界（時間加重平均値 TWA）

成分	日本産業衛生学会（2014 年版）	ACGIH（2012 年版）
溶剤脱ワックス重パラフィン系石油留分	3mg/m <sup>3</sup> （鉱油ミストとして）	5mg/m <sup>3</sup> （鉱油ミストとして）
水素処理重ナフテン系石油留分		

#### 推奨される測定方法：

当製品が暴露限界を有する物質を含む場合、個人、作業場の空気、あるいは生物学的なモニタリングを行い、換気等の管理手段の有効性、および呼吸器保護具を使用する必要性、あるいはそのいずれかを明らかにする必要がある。適切な監視規格を参照しなければならない。危険有害性物質の定量法に関する国の指針文書を参照することも必要になる。

#### 適切な技術的管理：

特別な換気設備は必要ない。全体換気装置は作業者が暴露される空中浮遊物質濃度の管理に十分なものを使用する。もしこの製品が暴露限界を有する成分を含有する場合は、工程の密閉、工程ごとの排気設備、あるいはその他の工程管理対策を用いて、空気中の汚染物質への暴露を、推奨あるいは規制された限界以下に保つこと。

#### 環境暴露管理：

換気装置および作業工程装置からの排出物を検査し、環境保護の法律規制の要件に適合していることを確認しなければならない。場合によっては排出物を許容レベル以下に下げのために煙霧清浄機やフィルター、あるいは行程装置の技術的改良が必要になることもある。

#### 設備対策：

作業場所の近くに洗眼スタンドと安全シャワーを設置する。

### 保護具

#### 呼吸器の保護具：

リスク評価によって必要とされるときは、承認された基準に合格した、微粒子除去フィルター付きの呼吸装置を使用する。使用する呼吸保護具は、既知もしくは予測される暴露量、製品の危険有害性、選択される呼吸保護具の安全作動限度に基づいて選択しなければならない。

#### 手の保護具：

リスク評価によって必要とされるときは、化学製品の取扱いの際、承認された基準に合格した耐化学品性で不浸透性の手袋を常に着用する。手袋製造業者により特定されたパラメータを考慮して、手袋の使用中に手袋がまだ保護性を維持しているかを確認すること。あらゆる手袋の材料は製造業者が異なれば透過時間も異なる可能性があることに注意する必要がある。いくつかの物質からなる混合物の場合には、手袋の保護時間を正確に推定することはできない。

眼の保護具： リスク評価によって必要とされるときには、液体の飛沫、ミスト、ガスあるいは塵埃への暴露を避けるため、承認された基準に合格した安全眼鏡を着用する。接触の可能性がある場合、評価によってより高次の保護が指摘されている場合を除いて次の保護具を着用しなければならない：耐化学物質飛沫よけゴーグル。

皮膚および身体の保護： 作業者の身体保護衣は、行う作業の内容および関連するリスクに基づいて選択しなければならない。さらにこの製品を取扱う前に専門家の承認を受けなければならない。

## 9. 物理的および化学的性質

外観

物理的状态： 固体（グリース）

色： 緑色

臭い： わずかな石油臭

沸点： データなし

引火点： データなし

燃焼または爆発範囲の上限・下限： データなし

蒸気圧： データなし

比重（相対密度）： データなし

自然発火温度： データなし

## 10. 安定性および反応性

化学的安定性： 製品は安定である。

危険有害反応可能性： 通常の貯蔵および使用条件下では、有害な反応は起こらない。

避けるべき条件： 特にデータはない。

混触危険物質： 特にデータはない。

危険有害な分解生成物： 通常の保管および使用条件下では、危険な分解生成物は生成されない。

## 11. 有害性情報

急性毒性： 重大な作用や危険有害性は知られていない。

製品/成分の名称	結果	種類	投与量	暴露時間
水素処理重ナフテン系石油留分	LD50 経口	ラット	>5000mg/kg	—
溶剤脱ワックス重パラフィン系石油留分	LD50 経皮	ウサギ	>5000mg/kg	—
	LD50 経口	ラット	>5000mg/kg	—

皮膚腐食性および皮膚刺激性： 軽い一過性の刺激を起こすことがある。推奨された使用法に従えば、健康に重大な悪影響をおよぼすとは予想されない。

眼に対する重篤な損傷性または眼刺激性： 眼には軽度の炎症を引き起こすことがある。推奨された使用法に従えば、健康に重大な悪影響をおよぼすとは予想されない。

呼吸器感作性： 人に対して有害ではないと考えられる。

皮膚感作性： 本品の皮膚感作性に関する明確な情報はない。人に対しては有害ではないと考えられる。

生殖細胞変異原性： 混合物自体についての利用可能なデータはない。人に対しては有害ではないと考えられる。

発がん性：	混合物自体についての利用可能なデータはない。人に対しては有害ではないと考えられる。
生殖毒性：	混合物自体についての利用可能なデータはない。人に対しては有害ではないと考えられる。
特定標的臓器毒性（単回暴露）：	データなし
特定標的臓器毒性（反復暴露）：	データなし
吸引性呼吸器有害性：	データなし
その他の情報	
可能性のある暴露経路についての情報	
吸入した場合：	重大な作用や危険有害性は知られていない。
飲み込んだ場合：	口、喉および胃に刺激性がある。
皮膚に付着した場合：	皮膚刺激
眼に入った場合：	強い眼刺激
物理的・化学的および毒物学的な特性に関連する症状	
吸入した場合：	特にデータはない。
飲み込んだ場合：	特にデータはない。
皮膚に付着した場合：	有害症状には以下の症状が含まれる。 刺激 発赤
眼に入った場合：	有害症状には以下の症状が含まれる。 痛みおよび刺激 流涙 発赤

## 12. 環境影響情報

生体毒性：	データなし
残留性・分解性：	データなし
生体蓄積性：	データなし
土壤中の移動性：	データなし
オゾン層への有害性：	データなし
他の有害影響：	重大な作用や危険有害性は知られていない。

## 13. 廃棄上の注意

廃棄方法：	廃棄物の発生は避けるか、あるいは可能な限り少なくする必要がある。製品とこの製品が含有される溶液およびあらゆる副生成物の処分は、常に環境保護および廃棄物処理に関する法律の定める要求事項、および現地法の定める要求事項に従わなければならない。余剰またはリサイクルできない製品は許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処理する。管轄当局の要件に完全に準拠しない限り、廃棄物を無処理で下水道に流してはならない。不要な包装材料は再利用しなければならない。焼却または埋め立ては再利用が不可能な場合にのみ検討すべきである。この材料および容器は安全な方法で廃棄しなければならない。空の容器や中袋に製品が残留している可能性がある。漏出した物質や流去水の拡散および土壌、水路、排水溝、下水道との接触を回避する。
-------	--

## 14. 輸送上の注意

適用法令	国連番号	輸送固有名	クラス	PG*	ラベル	追加情報
UN クラス	規定なし	—	—	—	—	—
ADR/RID クラス	規定なし	—	—	—	—	—
IATA クラス	規定なし	—	—	—	—	—
IMDG クラス	規定なし	—	—	—	—	—

PG\*：パッキンググループ

輸送時の安全対策および条件： 堅牢で容易に変形、破損しない容器に入れ、密栓して輸送する。  
運搬に際しては、容器からの漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法： 通知対象物  
消防法： 非危険物  
水質汚濁防止法： 油分排出規制  
下水道法： 鉱油類排出規制  
海洋汚染防止法： 油分排出規制  
化学物質管理促進法 (PRTR 法)： 非該当

## 16. その他の情報

略語の解説： UN=国際連合  
ADR=欧州危険物国際道路輸送協定  
RID=欧州危険物国際鉄道輸送規則  
IATA=国際航空運送協会  
IMDG=国際海上危険物

### 注意事項：

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取扱う事業者提供されるものです。また、危険有害性の評価では現時点で入手した資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、すべての情報を網羅したわけではありません。取扱う事業者の皆様は、これを参考として、自らの責任において個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講じる必要があることをご理解の上、お使い頂きますようお願い申し上げます。

従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。  
また、法令の改正および新しい知見に基づき改訂されることがあります。